

「未来の会津農業を牽引する担い手の育成」

～新規就農者の確保・育成～

会津農林事務所喜多方農業普及所

1 地域の概要

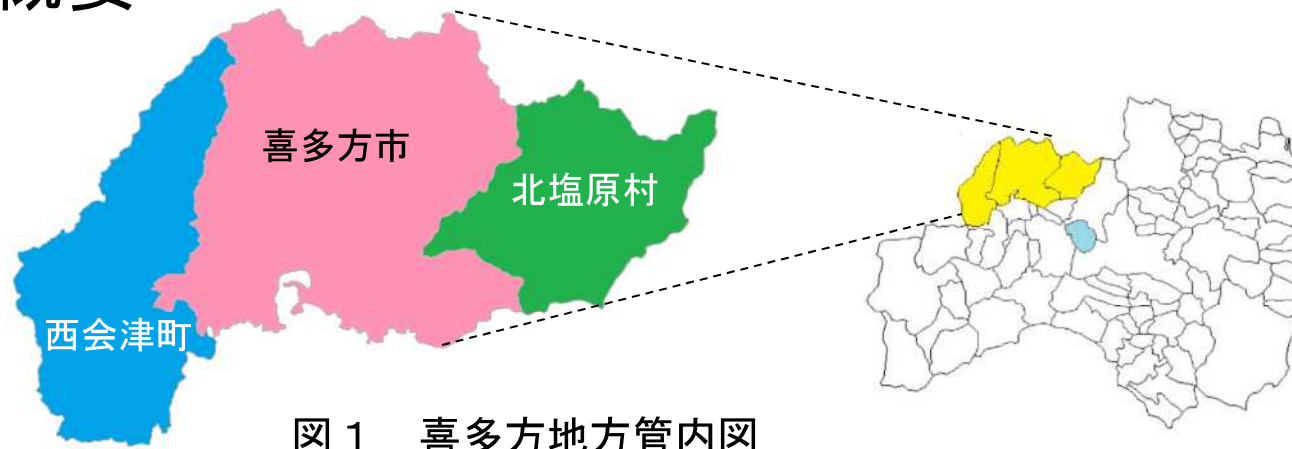


図1 喜多方地方管内図

- 会津盆地の北側に位置し、北は山形県・飯豊連峰、西は新潟県に接する。
- 観光(裏磐梯、蔵の町、ラーメン、国際芸術村、…)、酒造業(11蔵元)
- 県内有数の米どころ(水田面積:8,004ha)・園芸(アスパラガス52ha、きゅうり17ha等)

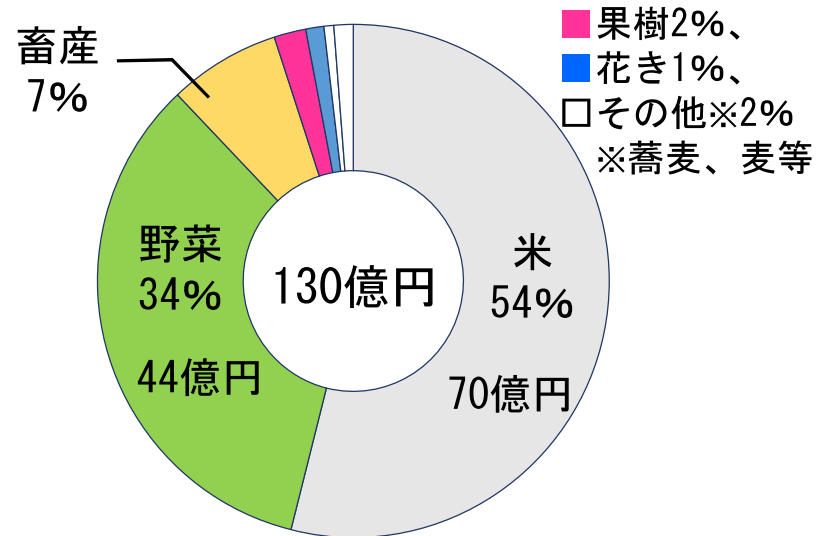


図2 喜多方地方農業産出額 (R5年度)



喜多方地域の担い手の現状と課題①

高齢化による農業従事者数の減少が進行中

○農業従事者数は10年間で3割減少。 ○65歳以下では5割以上減少。

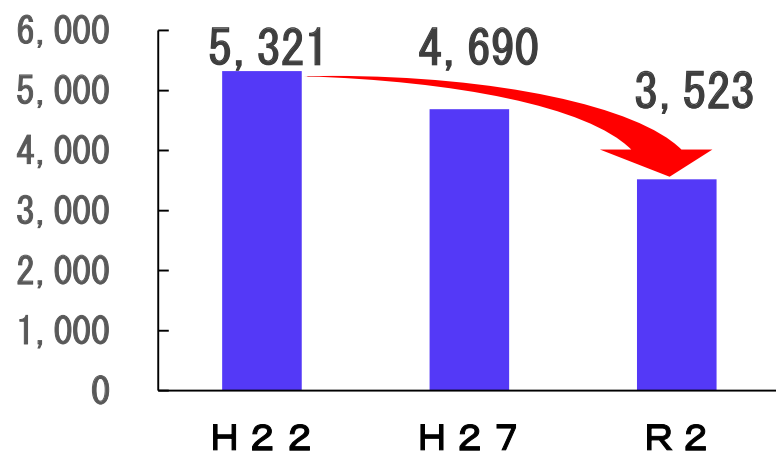


図3 基幹的農業従事者数
(出典：農林業センサス)

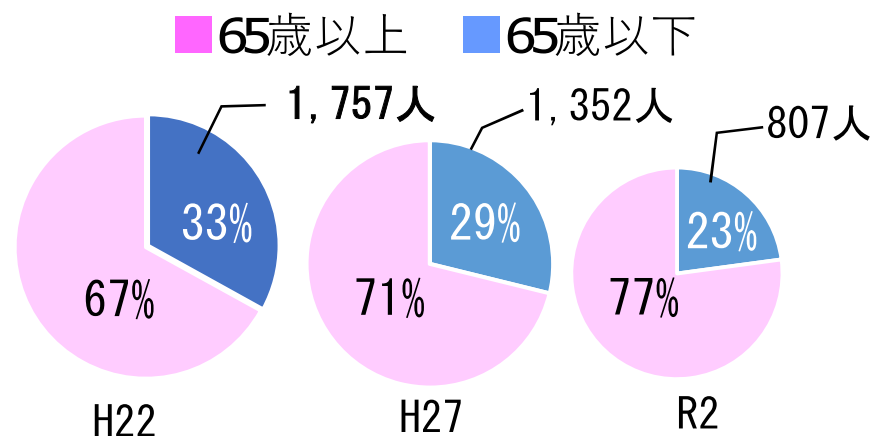


図4 幹的農業従事者の年代構成
(出典：農林業センサス)

◆地域農業を支える担い手の確保が急務

喜多方地域の担い手の現状と課題②

担い手への農地集積が進み、法人化が進展。

○10ha以上の農家戸数は倍増し
30ha以上の農家戸数が急増

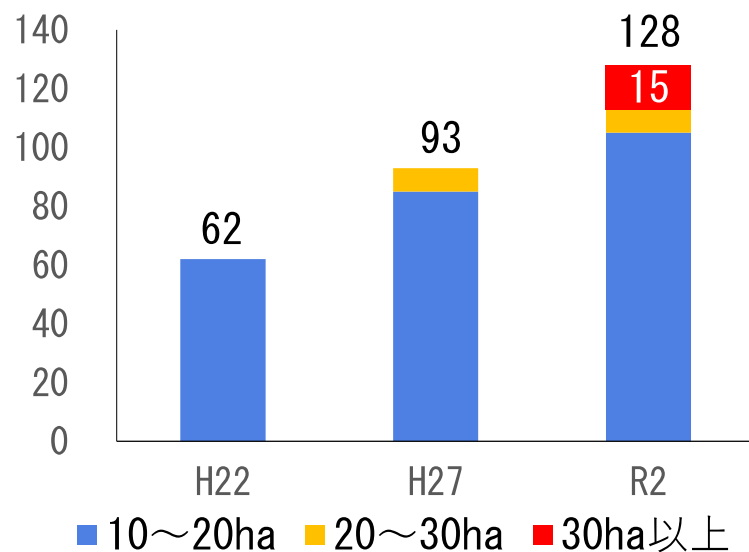


図5 耕作面積10ha以上の農家戸数

(出典：農林業センサス)

○農業法人は増加中

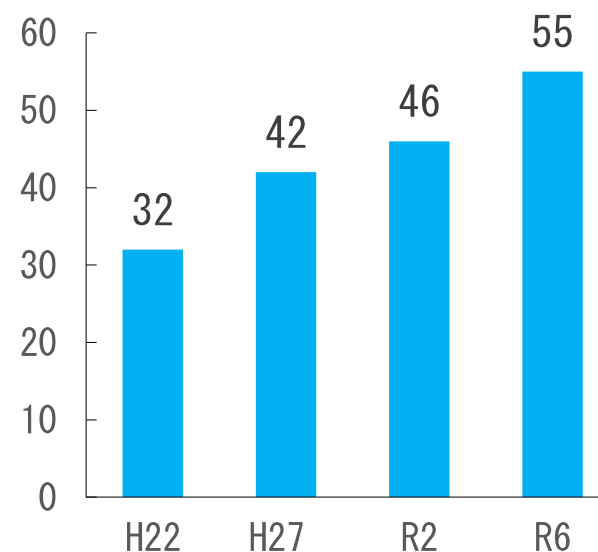


図6 喜多方普及所管内農業法人数

◆永続的な営農に向け人材の確保が課題

喜多方地域の担い手の現状と課題③

新規就農者は年間10名超

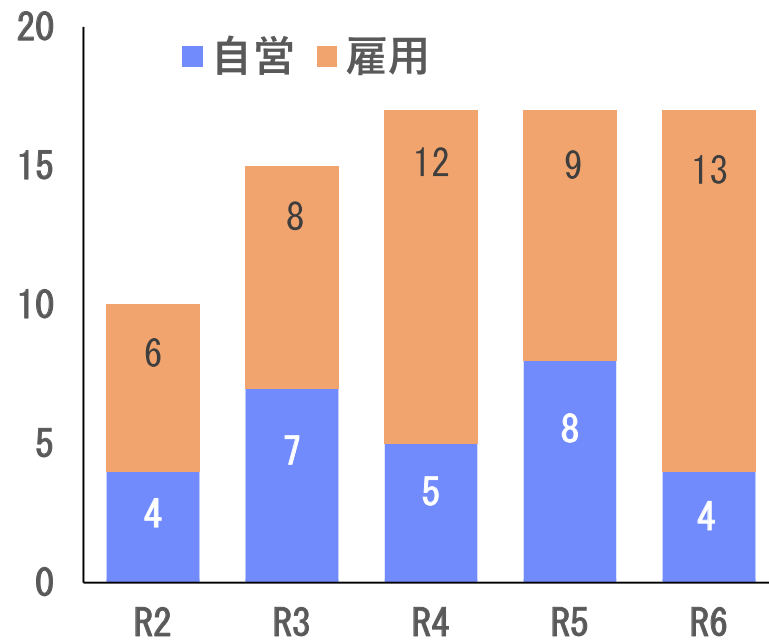


図7 年次別新規就農者数

表1 主要園芸品目作付推移

	H22	H27	R2
アスパラガス	142.0	111.0	60.6
キュウリ	13.3	14.5	17.5
トマト・ミニトマト	9.5	9.9	8.8

○法人への雇用就農が大半



◆法人では、安定雇用(人材)の確保が悩み

○自営就農のうち新規参入者はキュウリ、アスパラガスが多い



◆園芸産地を維持するには、新規参入者の経営安定と定着が不可欠。

これまでの活動(新規就農者、青年農業者の育成)

○認定研修機関の整備



令和2年度～令和6年度
2経営体⇒13経営体
研修生受け入れ：12名

○就農相談、就農計画作成



令和6年度
就農相談件数：14件
認定新規就農者：4名

これまでの活動(新規就農者、青年農業者の育成)

○新規就農者への巡回指導



巡回指導の記録は、関係機関
(新規就農サポートチーム)
で共有。

○新規就農者等研修会



会津農林事務所農業振興普及部
・農業普及所合同で年4回開催

令和7年度の活動及び成果

『課題名：未来の会津農業を牽引する担い手の育成』

～新規就農者の確保・育成～

(1) 活動のねらい・目的

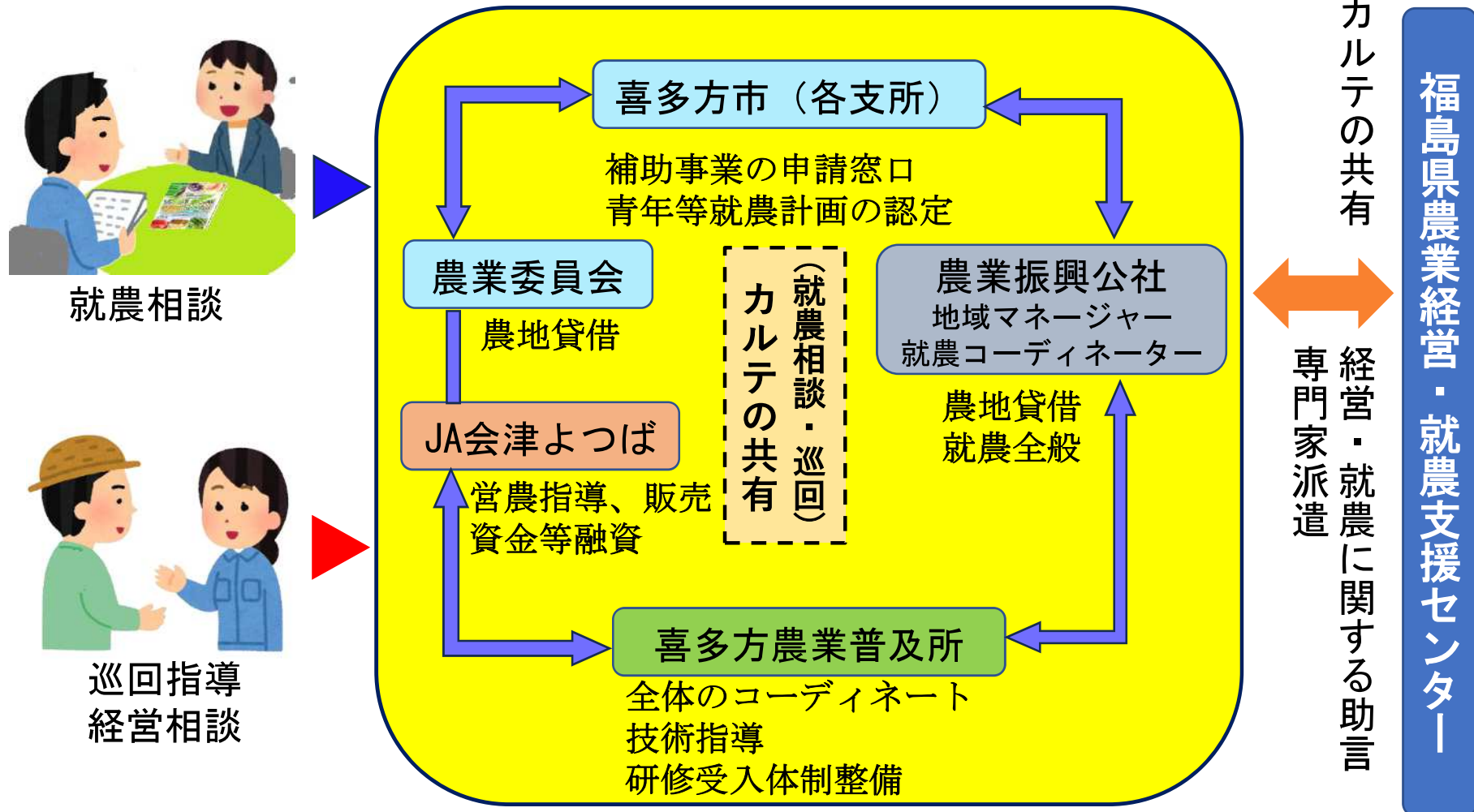
- 新規就農者の受入れ体制整備と定着に向けた支援。
- 新規就農者への巡回指導等による早期経営安定化。
- 農業教育機関と連携し、若い世代が農業の魅力を感じる機会の創出

1 新規就農者の受け入れ体制整備

○新規就農サポートチーム（喜多方市、北塩原村、西会津町）

◇役割分担を明確にして活動

◇就農相談カルテを作成し、関係機関と共有



1 新規就農者の受け入れ体制整備

○認定研修機関の認定支援

- 再認定にむけた研修計画等見直し
- 新規認定希望経営体への制度説明
- ◆ 新規認定 3 経営体
- ◆ 5 経営体が認定を継続



○研修生への巡回・面談

- 研修ニーズ・資金活用の把握
- 就農プラン作成
- ◆ 研修生 2 名の青年等就農計画認定

○経営・就農支援センター連携活動

- 認定研修機関の経営課題への対応
- 社会保険労務士派遣支援
- ◆ 雇用条件、就業規則の改善



2 新規就農者の育成・確保

○新規就農者の巡回指導(早期経営安定化)

- 支援チーム、専門班による巡回指導(12月末)
就農計画達成状況確認 9 件
各専門担当巡回による指導(延べ) 61 件

※病虫害被害低減、収量増等に効果

◆R7年度就農定着率 100%

○新規就農相談への対応

- R7年度相談件数 36 件(12月末)
※就農イメージ、就農支援事業の情報提供
- 移住就農相談会、農業人フェア(会津地域)
※首都圏では実家農地、地元では親元承継の相談多い
- 青年等就農計画の作成・認定支援

◆研修生 2 件を含む 4 件認定



就農者の資質向上、若い世代へ農業の魅力発信

○就農者の資質向上に向けた活動

- 新規就農者等研修会 4 回（会津農林事務所農業振興普及部・普及所合同開催）
就農の基礎知識、農業機械の整備点検、土づくり、病虫害防除をテーマに開催
- 青年農業者等の人材確保に向けたセミナー
単発バイトアプリの活用、農福連携による雇用確保をテーマに開催

○教育機関と連携した活動

- フレッシュ農業講座の開催（会津農林高校 1 年生対象）
- 就農インターンシップ（会津農林高校 2 年生対象）
- 先進農家等留学研修（県立農業短期大学校 1 年生）
本年度受講学生が研修先農業法人への就農を希望
- 福島県の農業現地視察（県立農業短期大学校 1 年生）



今後の活動方向

1 新規就農者の受け入れ体制整備

- 認定就農機関新規・継続認定の支援
 - 農業法人、JA生産部会等を対象に認定研修機関の認定取得を推進
 - 既存認定研修機関（16経営体）の継続認証の支援
- 就農希望研修生受入れマッチング支援
 - 新規就農サポートチームの連携を強め、認定研修機関と就農研修希望者のマッチングをサポート

2 新規就農者の育成・確保

- 新規就農者の早期経営安定化巡回指導（継続）
 - 就農計画の達成状況、生育状況に合わせたこまめな指導の実施
- 新規就農相談への対応
 - 移住就農相談会、農業人フェアでの就農者の掘り起こし
相談会等で会津地域への就農希望者が多いことから、関係機関に働きかけ
相談対応ブースの拡充など相談体制を強化
- 第三者経営承継の支援
 - 第三者経営承継の周知と経営譲渡・承継希望者のマッチング支援
昨年度から1件の第三者経営承継支援中。
今後も承継要望が高まると予想される。

3 就農者の資質向上、若い世代へ農業の魅力発信

○就農者の資質向上に向けた活動

- 新規就農者等研修会の開催（継続）
- 新規就農者の関心度が高い技術や経営発展に寄与するセミナーの開催

○教育機関と連携した活動の継続

- 農業高校生、農業短大生を対象とした就農インターンシップ、先進農家等留学研修先に管内の若手経営者や優良な農業経営体等を選定し農業の魅力発信を継続。

令和5年度第64回福島県農業賞

新規就農部門

田中 圭氏
(アスパラガス)



令和7年度第66回福島県農業賞

新規就農部門

石井達也・有希さんご夫妻
(夏秋きゅうり)



外部評価会説明概要整理表

会津農林事務所喜多方農業普及所

実施課題名(計画②)	未来の会津農業を牽引する担い手の育成
普及指導事項(計画⑩)	新規就農者の確保・育成 新規就農者の支援
対象(計画⑪)	就農希望者・新規就農者
課題設定の背景(計画⑥)	園芸作物を中心にIT・インターネットによる新規就農者する事例が多いことから、関係機関が連携し就農希望者の受入体制が整備されています。なお、新規就農者の経営安定を図るには、栽培技術の向上が重要です。さらに、若い世代の就農意欲の向上を図り、将来の地域の担い手となる人材の確保することが必要です。
普及指導活動のねらい(計画⑦)	関係機関と連携し就農希望者のニーズに合った研修や就農計画の作成などの就農支援を行い、新規就農者の確保を図ります。また、新規就農者や認定研修機関の巡回指導やコンサルティングなど通して、各々の課題解決を支援します。さらに、農業教育機関と連携した研修等により、若い世代が農業の魅力を感じる機会を作ります。
前年度までの活動経過(計画⑧)及び残された課題(計画⑨)	関係機関と連携し、就農相談や就農計画の作成を支援し就農者の経営能力向上や技術習得の支援を行ってきました。また、農業の魅力を伝えるため、高校生を対象にIT・インターネット農業講座等を開催しました。就農希望者が就農しやすい環境つくるには、関係機関と連携した就農相談体制の強化と認定研修機関の整備が必要です。また、研修生にとって効果的な研修となるよう、研修機関に年間研修計画の作成支援や研修環境の改善のための支援が必要です。さらに、新規就農者の経営安定に向け、引き続き巡回指導等を行う必要があります。

成果測定事項(計画⑫⑬)	R6 (基準)	R7	R8	R9	R10	R11	R12
	目標	6	6	6	7	7	7
認定新規就農者数 (経営体数/年)	実績	6	4				
	目標	100	100	100	100	100	100
就農定着率(%) ※雇用就農者は除く	実績	100	100				

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関と連携し就農希望者に就農までのイメージや支援事業の情報などを含め就農相談を実施(61件) ○ 首都圏、県内で開催された就農フェア等での就農相談を通して就農希望者の掘り起こしを行った。 ○ 新規就農者の青年等就農計画作成及び研修生との面談による研修状況の把握と研修計画作成を支援 ○ 認定新規就農者の就農計画達成状況の確認及び各作物普及員による巡回指導を実施(延べ70回) ○ 経営管理・技術向上を目指した新規就農者等研修会を開催(農林事務所共通4回、独自開催1回) ○ 法人等の認定研修機関の新規認定、継続認定を支援 ○ 教育機関と連携し、農業講座や就農インタビュー、先進農家留学研修を実施
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農相談等により把握した新規就農希望者(23名)について市町村等関係機関と情報を共有化 ○ 青年等就農計画(研修生、新規就農各2名)が認定され4名の認定新規就農者を確保できた。 ○ 各作物担当の巡回指導により、栽培管理の向上から病害虫被害の低減や収量増の効果が見られた。 ○ 独自開催の研修会に15名が参加し、研修会で取り上げた人材雇用アプリの活用に向けた前向きな意見を得た。 ○ 喜多方地域の認定研修機関は野菜園芸中心に16経営体が認定を受けている。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------